

高知県工業技術センターだより

▶ 研究内容をPRしました

高知県 産学官民連携センター ココプラで開催している「シーズ・研究内容紹介」では、高知県内の高等教育機関、公設試験研究機関が持ち回りで、研究内容や取組などを紹介しています。

今回は、6月6日（水） 18:30～20:00 に行った、当センターの発表内容をご紹介します。

【1】 RoHS 指令に基づく分析で県内企業の海外展開を支援する 資源環境課 岡崎 由佳

《概要》欧州連合(EU)は電気電子機器を対象として、2003年に電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限指令(RoHS 指令)を公布しました。これにより、2006年以降に販売される電気電子機器について特定有害物質(カドミウム、鉛、六価クロム、水銀、PBB、PBDE)の原則使用禁止が義務づけられました。それに伴い、県内企業から RoHS 指令に基づく分析依頼の要望が増え、迅速な対応が求められました。



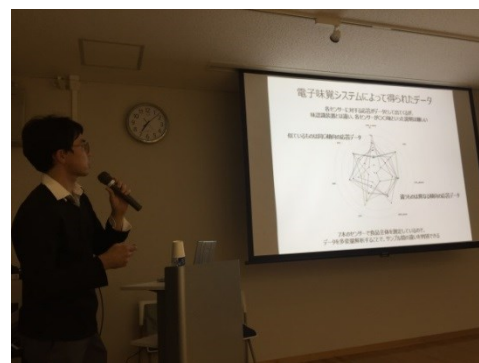
工業技術センターでは、RoHS 指令公布前の2002年頃から分析手法の検討や分析技術の習得に取り組み、2010年には世界的に通用する分析能力を保有していることを証明する、ISO/IEC 17025に基づく試験所認定を取得しました。これまでにのべ480件の分析を行い、その証明書を発行することで海外展開を行っている企業様を支援しました。また、2013年に改正されたRoHS2指令により、2015年から新たに4種のフタル酸エステル類が禁止物質として追加されました。これにつきましても、本年度より分析を実施しています。

講演では、RoHS 指令の対象となる製品にはどんなものがあるか、自社製品が対象となった場合にはどのような手続きが必要かなど、海外展開をお考えの企業様の参考になる情報を提供しました。

【2】 感性評価機器を用いたおいしさの数値化

食品開発課 下藤 悟

《概要》当センターに味認識装置と多感覚器分析システムといった感性評価機器が導入され、食品の味、におい、色を数値化することが可能となりました。県内外の食品加工事業者においても、感性評価機器で測定したデータを実際の商品開発、販促にむけた資料作りに活用する事例が増えてきています。



しかし、商品の特徴をどう数値化すればいいのかわからない、分析依頼したもののデータを販売や開発にどう活用していいかわからない、といった悩みも多いのが現状です。

当センターでは、昨年末より基礎データとして、ぼん酢、ショウガ、トマトといった食品のデータを収集してきました。そして、これらのデータの解析事例を味の数値化分科会を通して情報発信しています。今回はその内容を一部ご紹介しました。

【3】3Dプリンタであなたのアイデアを形に！

生産技術課 毛利 謙作

《概要》 昨年導入したインクジェット方式の3Dプリンタについて、その特長、造形精度、実際運用して得られたノウハウ、製品開発事例等を紹介しました。3Dプリンタの基本的な原理や、工業技術センターでの利用方法についても説明しました。

また、今年度から取り組み始めた研究課題「3Dプリンタを活用した土木機械の開発プロセス研究」について、その概要と、実製品を対象として取り組み始めたモデルケースを説明しました。



《聴講者アンケートより》

- ・地道な取組ですが、それぞれに大切な研究だと思いました。
- ・RoHS試験について知れてよかった。今後のRoHS法対応に役立てます。
- ・味覚センサーについて、詳しい内容を知りたいと思っており、参加してよかった。
- ・3Dプリンタの話にとっても興味がわいた。
- ・学者的なプレゼンで素人には分かりづらかったけど、県にこんな機関があることが分かり視野が広がった。
- ・専門的すぎて難しかったと思いました。

夜間の講演だったにもかかわらず、高校生から企業で実務を担当されている方まで、30名の方にご参加いただきました。アンケートのご意見を参考に、今後のPR活動では専門外の方にも興味を持って頂けるよう工夫したいと思っております。ご来場、ありがとうございました。

▶内容に関するお問い合わせは、工業技術センター研究企画課（088-846-1167）まで

お気軽にお問い合わせください。

088-846-1111

受付時間 平日 8:30 ~ 17:15

